

ささえあい 支え愛マップ づくりにより

災害発生時の
避難支援の
仕組みづくり

避難支援に係
る課題解決に
向けた取組

支え愛避難所
の設置・運営
に向けた取組

応援します！

地域に暮らしている「**要支援者**（※）」を支えるための、
災害発生時の避難支援の仕組みなど、住民同士でつくる取組を支援します。

※例えば……一人暮らし、寝たきり及び認知症等の高齢者、障がいのある方 など

災害時要支援者対策 促進事業

- 支え愛マップの作成
- 要支援者の特性に応じた個別避難訓練の実施
- 要支援者の見守り、避難支援等に係る研修会・講習会の開催 など



補助限度額：1住民組織あたり5万円以内

(H29年度までに「支え愛マップづくり」事業の補助を受けていない住民組織が対象)

災害時要支援者対策 ステップアップ事業



- 「地域支え愛会議」の立ち上げ
自治会長・町内会長や福祉推進員などがリードし、住民が自らの地域の福祉課題を話し合う。支え愛マップを活用して問題を共有し、「支え愛」の充実を目指す。
- 支え愛マップづくりで認識・共有された避難支援に係る課題解決に向けた取組
災害時の障がいのある方の個別避難支援、認知症徘徊模擬訓練など、支え愛マップづくりで共有した避難支援に係る課題の解決に向けた取組。

補助限度額：1住民組織あたり10万円以内

(H29年度までに「支え愛マップづくり」事業の補助を受けた住民組織が対象)

災害時要支援者対策 モデル事業

支え愛マップの作成～「支え愛避難所」の点検・資機材の整備までは、1年間で取り組むもので、早期に避難体制から避難所整備の充実を目指す。

- 支え愛マップの作成
- 要支援者の特性に配慮した個別避難訓練の実施
- 地域支え愛会議の立ち上げ・運営
- 支え愛マップづくりで認識・共有された「支え愛避難所」の点検・資機材の整備

補助限度額：1住民組織あたり10万円以内

(H29年度までに「支え愛マップづくり」事業の補助を受けていない住民組織が対象)

この他に、集落間の連携を図る「災害時要支援者対策のための住民組織間交流事業」もあります。

【対象経費】報償費

支え愛 マップとは

日常生活を送る上や災害発生時の避難において、誰かの支援を必要とする地域住民の情報を、地図上にまとめたもの。防災体制の確認だけでなく、日ごろからの気くばりや「支え愛」の必要性を住民同士で共有することができます。

▼補助対象

○住民組織

住民自治を行うための意思決定機関(総会、役員会など)があり、それに基づく活動や予算を確保されている最小単位の区域。(町内会、集落、自治会、公民館など)

▼対象経費

報償費、旅費、需用費(消耗品費、燃料費、食糧費、印刷製本費)、役務費(通信運搬費、手数料、保険料)、使用料及び賃借料、備品購入費

足腰が弱くなって...
今災害が起きたら、自分ひとりで
逃げられるだろうか



災害時に不安
のある人

一人暮らしのあの人、
最近家の雪かきが
しんどくなってきたみたい



不安な人が身
近におられる人

食事の支度や買い物・
通院で困っている



平常時に困り
事のある人

私たちが暮らしている地区（集落）には、様々な人が住んでいます。その中には、高齢になって生活に困りごとを抱えている人、災害が起きたときの避難に不安を感じている人、もともと地域との関係が薄く、**困りごとが誰にも気づかれないままになっている人などがおられます。**

社会には、困りごとをサポートするためのサービスもあります。しかし、高齢者・障がい者・児童といった分野別の支援では、複雑な困りごとに対応できない場合もあります。様々な住民一人ひとりが安心して地域の中で暮らし続けていくためには、その人のそばで暮らしている友人、**近隣住民による「支え愛」が欠かせません。**

いわゆる人と人がつながり・支え合える地域（小地域）で、困っている人を困ったままにしない活動が重要になっています。

支え愛マップづくりに
取り組んだ後の感想

- 長年住んでいる地区でも、知らないことや人が多くあった。
- 昼と夜では、地域内の様子が大きく異なることに気づいた。
- 普段は何気なく歩いているが、「災害が起きたら」という目で歩いたときに実に様々な課題が見えてきた。
- 10人の支援者で35人の要支援者を避難誘導しなければならないことがわかって愕然とした（多くの協力が必要）。
- 一方、支え合いの仲間の存在も見えてきて心強い。
- 自分の知らないことや自分にはなかった発想を他の参加者の発言から気づかされた。

「集落のことは、住民全体のこと」
役員の方だけではなく、住民全体による取組が重要